



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年2月12日

上場会社名 株式会社エムアップ 上場取引所 東
 コード番号 3661 URL http://www.m-up.com
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 美藤宏一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総務経理部長 (氏名) 藤池 季樹 TEL 03-5467-7125
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績（平成27年4月1日～平成27年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	2,794	1.1	305	△34.7	314	△33.5	245	△8.7
27年3月期第3四半期	2,764	—	467	—	473	—	269	—

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 363百万円 (24.7%) 27年3月期第3四半期 291百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	32.99	32.89
27年3月期第3四半期	38.53	36.43

(注) 第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年3月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第3四半期	2,822	2,070	72.4	275.0
27年3月期	2,727	1,850	67.0	245.5

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 2,044百万円 27年3月期 1,827百万円

(注) 第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年3月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
28年3月期	—	0.00	—		
28年3月期(予想)				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成28年3月期の連結業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,000	7.8	625	13.0	625	3.3	395	10.0	53.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）一、除外 一社（社名）一
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期3Q	7,450,000株	27年3月期	7,445,200株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	86株	27年3月期	86株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期3Q	7,449,248株	27年3月期3Q	6,984,758株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、このところ一部に弱さも見られるものの、企業収益や雇用及び所得環境が改善し、それに伴い個人消費も総じて底堅い動きを見せるなど、緩やかな回復基調が続いております。先行きについては、各種政策の効果もあり、回復基調が続くと期待されておりますが、アメリカの金融政策の正常化が進む中、中国をはじめとした海外経済が下振れし、景気を下押しするリスクが懸念されるなど、不透明な状況にあります。

当社を取り巻くインターネット関連市場につきましては、スマートフォンやタブレット端末の普及と利用の定着によるインターネットのモバイル化が進んでおり、今後も安定的な成長と拡大が期待されております。

平成27年9月末における携帯電話端末全体の契約数は1億2,705万件(前年同期比2.3%増)と、人口普及率は100%を超えており、増加のペースは緩やかになっております。内訳では、スマートフォンの契約数が、7,237万件(前年同期比15.8%増)と引き続き大きく増加し、全体の57.0%に達するなど、より一層の普及が進んでおります(出所:MM総研)。また、スマートフォンの所有率がノートPCの所有率を超え、モバイル機器では最多となり、インターネットの利用もスマートフォンが中心になるなど、利用機会や頻度はますます増加しております。

音楽関連の市場動向といたしましては、平成27年におけるオーディオレコードと音楽ビデオ合計の生産数量が223,719千枚(前年同期比1.0%減)、生産金額では254,449百万円(前年同期比0.1%増)と概ね横ばいとなっております(出所:一般社団法人日本レコード協会)。また、コンサートの市場につきましては、平成27年上半期の市場規模が127,468百万円(前年同期比22.1%増)と拡大が続いており、音楽やアーティストに対する底堅い需要が見られております。

このような外部環境の中、当社は、アーティストやタレント、声優、キャラクターまでの幅広いジャンルにおいて、ファンクラブサイトやしゃべってキャラ、音楽、電子書籍といった多岐にわたるデジタルコンテンツの配信から、eコマースに至るまでを複合的に展開し、サイトや事業セグメント間でのシナジー効果を発揮させることによって、収益の拡大と多様化を進めてまいりました。

事業の基盤となる有料会員につきましては、今後の流行が予想されるコンテンツのいち早い発掘と獲得を継続し、スマートフォン向けの新規サイトの開設やコンテンツ配信を行い、会員数の増加に努めてまいりました。加えて、よりスマートフォンに適したサイト展開とコンテンツの高付加価値化によって、会員単価の上昇にも取り組むとともに、スマートフォン向けアプリの配信など、今後へ向けた新たな事業展開も行っておりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,794百万円(前年同期比1.1%増)となりました。しかしながら、eコマース事業において、在庫商品の販売に伴い、商品評価損を計上したことから、営業利益は305百万円(前年同期比34.7%減)、経常利益は314百万円(前年同期比33.5%減)にとどまりました。特別損益として、有価証券売却益153百万円及び有価証券評価損89百万円をそれぞれ計上した結果、税引前四半期純利益は388百万円(前年同期比17.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は245百万円(前年同期比8.7%減)となりました。

セグメントごとの概要は、以下のとおりであります。

①携帯コンテンツ配信事業

携帯コンテンツ配信事業につきましては、事業の基盤となる有料会員の増加を図るべく、引き続きアーティストや声優、タレントの新規ファンクラブサイトやメール配信サイトの開設を推進してまいりました。

また、「スゴ得コンテンツ」、「スマートパス」や「App Pass」といったキャリアの提供するスマートフォン向け月額使い放題サービスにおいても、積極的に新規サイトコンテンツの提供を行い、収益の拡大に努めてまいりました。加えて、スマートフォン向けアプリの配信など、今後の新たな事業領域の開拓も行ってまいりました。

一方、既存のファンクラブサイトにおいては、会員向けコンサートチケットの先行予約など、会員数の維持、拡大に対応してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における携帯コンテンツ配信事業の売上高は2,468百万円(前年同期比5.1%増)、セグメント利益は656百万円(前年同期比0.8%増)となりました。

②PCコンテンツ配信事業

PCコンテンツ配信事業につきましては、運営するアーティスト及びタレント等の有料ファンクラブサイトにおいて、パッケージ商品やコンサートチケットの先行販売などを実施してまいりました。また、アーティストやタレントのオフィシャルサイトの受託制作など、他の事業セグメントも含め、将来の新たな収益の獲得と拡大に繋がることを見据えた事業展開を行ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるPCコンテンツ配信事業の売上高は145百万円(前年同期比12.8%減)、セグメント利益は13百万円(前年同期比1.1%増)となりました。

③eコマース事業

eコマース事業につきましては、CD、DVD及びブルーレイといった音楽映像商品と、それに関連するアーティストグッズを中心に、当社がファンクラブサイトを運営するアーティスト等の商品の直販と、大手レコード会社との提携によるレコード会社の公式販売サイトの運営管理の両面から、事業を展開してまいりました。

しかしながら、従来からのアパレル商品の販売が縮小傾向にあることや、アーティスト関連商品の取扱高が、その活動状況によって減少したことから、当第3四半期連結累計期間におけるeコマース事業の売上高は170百万円(前年同期比16.8%減)にとどまり、また、在庫の商品販売に伴い、商品評価損が発生したことから、セグメント損失は105百万円(前年同期比-)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は2,822百万円(前連結会計年度末比3.5%増)となりました。

流動資産は1,805百万円(同5.2%増)となりました。主な内訳は、現金及び預金783百万円(同11.5%増)、売掛金679百万円(同3.6%増)、商品70百万円(同61.8%減)となっております。

固定資産は1,017百万円(同0.6%増)となりました。主な内訳は建物94百万円(同2.0%減)、投資有価証券591百万円(同44.7%増)となっております。

(負債の部)

流動負債は732百万円(同15.7%減)となりました。主な内訳は、買掛金477百万円(同10.8%増)であります。

固定負債は19百万円(同171.0%増)となりました。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は2,070百万円(同11.9%増)となりました。主な内訳は、資本金243百万円(同0.2%増)、資本剰余金269百万円(0.2%増)、利益剰余金1,541百万円(同6.7%増)であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後における我が国の経済は、各種政策の効果により回復へ向かうことが期待される一方で、アメリカの金融政策の正常化の影響を受けた、中国をはじめとする海外経済の下振れや、原油価格の動向など、景気を下押しするリスクが懸念され、先行きは不透明な状況にあります。

一方で、当社の属するインターネット関連市場につきましては、スマートフォンの普及が一巡し、それに伴ってコンテンツサービスもスマートフォン向けが大半を占めるに至るなど、モバイルビジネスを取り巻く環境は大きく変化しております。

こうした事業環境の中、当社は技術及び市場動向の影響を受けにくい、ファンクラブサイトを中心としたモバイルサイトの開設と、それに伴う新規有料会員の獲得を推進しており、会員割合については、スマートフォンがフィーチャーフォンを大きく上回っております。

しかしながら、スマートフォン向けコンテンツ市場はいまだ黎明期にあり、技術革新やサービスの流行と陳腐化の流れは早く、それらを的確に予測することは困難であります。

そのため、当社といたしましては、これまで以上に迅速な事業展開を進めていく方針であります。携帯コンテンツ配信事業の業績予想は、スマートフォン市場の動向を最大限に加味し、保守的なものとしております。

費用面では、販売に比例し増減するロイヤリティ等や、採用の強化に伴う人材関連費用の増加を見込んでおります。

以上により、当期(平成28年3月期)の見通しについては、売上高4,000百万円(前年同期比7.8%増)、営業利益625百万円(前年同期比13.0%増)、経常利益625百万円(前年同期比3.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益395百万円(前年同期比10.0%増)を見込んでおります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	702,387	783,190
売掛金	655,842	679,318
商品	185,001	70,727
その他	175,348	273,740
貸倒引当金	△2,080	△1,645
流動資産合計	1,716,500	1,805,331
固定資産		
有形固定資産	154,516	189,051
無形固定資産		
のれん	56,239	40,529
その他	14,674	9,493
無形固定資産合計	70,914	50,023
投資その他の資産		
投資有価証券	408,636	591,425
その他	412,280	219,711
貸倒引当金	△35,358	△32,702
投資その他の資産合計	785,558	778,434
固定資産合計	1,010,989	1,017,509
資産合計	2,727,490	2,822,840
負債の部		
流動負債		
買掛金	431,086	477,549
未払法人税等	141,481	5,099
賞与引当金	39,368	17,854
役員賞与引当金	30,000	22,500
資産除去債務	12,008	-
その他	215,572	209,675
流動負債合計	869,516	732,679
固定負債		
資産除去債務	-	11,778
その他	7,300	8,008
固定負債合計	7,300	19,786
負債合計	876,816	752,465
純資産の部		
株主資本		
資本金	243,167	243,716
資本剰余金	269,434	269,983
利益剰余金	1,444,512	1,541,340
自己株式	△48	△48
株主資本合計	1,957,066	2,054,992
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△129,199	△10,778
その他の包括利益累計額合計	△129,199	△10,778
新株予約権	22,806	21,546
非支配株主持分	-	4,616
純資産合計	1,850,673	2,070,375
負債純資産合計	2,727,490	2,822,840

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	2,764,671	2,794,665
売上原価	1,668,505	1,763,958
売上総利益	1,096,165	1,030,707
販売費及び一般管理費	628,493	725,107
営業利益	467,672	305,600
営業外収益		
受取利息	74	-
貸倒引当金戻入額	3,853	2,744
受取賃貸料	1,475	1,519
出資金運用益	-	4,266
その他	108	586
営業外収益合計	5,510	9,117
営業外費用		
その他	22	23
営業外費用合計	22	23
経常利益	473,161	314,694
特別利益		
投資有価証券売却損益	-	153,404
新株予約権戻入益	-	1,260
関係会社株式売却益	-	8,024
特別利益合計	-	162,689
特別損失		
投資有価証券評価損	-	89,139
特別損失合計	-	89,139
税金等調整前四半期純利益	473,161	388,244
法人税、住民税及び事業税	192,575	114,792
法人税等調整額	4,645	28,105
法人税等合計	197,221	142,898
四半期純利益	275,939	245,346
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	6,783	△383
親会社株主に帰属する四半期純利益	269,156	245,730

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	275,939	245,346
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15,679	118,420
その他の包括利益合計	15,679	118,420
四半期包括利益	291,619	363,766
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	284,836	364,150
非支配株主に係る四半期包括利益	6,783	△383

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益 計算書計上 額 (注)3
	携帯 コンテンツ 配信事業	PC コンテンツ 配信事業	eコマース 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	2,349,424	167,087	205,238	2,721,750	42,920	2,764,671	-	2,764,671
セグメント間の 内部 売上高 又は振 替高	-	-	-	-	18,805	18,805	△18,805	-
計	2,349,424	167,087	205,238	2,721,750	61,725	2,783,476	△18,805	2,764,671
セグメン ト利益又 は損失 (△)	651,589	13,637	45,418	710,645	△3,678	706,966	△239,293	467,672

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゆるキャラ関連の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△239,293千円には、セグメント間取引消去△15,105千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△224,188千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般経費であります。

3. セグメント利益または損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益 計算書計上 額 (注)3
	携帯 コンテンツ 配信事業	PC コンテンツ 配信事業	eコマース 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	2,468,213	145,742	170,756	2,784,712	9,953	2,794,665	-	2,794,665
セグメント間の 内部 売上高 又は振 替高	-	-	-	-	4,038	4,038	△4,038	-
計	2,468,213	145,742	170,756	2,784,712	13,991	2,798,704	△4,038	2,794,665
セグメン ト利益又 は損失 (△)	656,766	13,784	△105,160	565,390	△1,357	564,032	△258,432	305,600

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゆるキャラ®関連の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△258,432千円には、セグメント間取引消去△7,664千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△266,096千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般経費であります。

3. セグメント利益または損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。